



新調した客殿2Fロビー

忘れられない食事

住職コラム

19

私

には忘れられない
食事がいくつかあ
ります。

一つは十二歳の時、初めて
学習塾へ通った日に食べたケ
ンタツキーのハンバーガー。
教室で食べようと事前に
買ったそのハンバーガーは、
いつ食べて良いのか分からず、
心細さと相まって育ち盛りの
お腹はペしゃんこになってい
ました。そんな中、勇気を出
して食べたそれは空腹に染み
渡る今でも忘れられない美味
しさでした。

もう一つは修行中のお粥で
す。道場の食事作法はとても

厳しく、お粥・漬物・ごま塩
の三品を様々な作法を通し、
感謝の念を捧げたり、食べる
意味などを問いながら四十分
かけて食します。

初めの頃はただ作法通りに
食事をするだけで精一杯でし
たが、作法に慣れたある日、
頭上に掲げたお椀のお粥が正
に光り輝く時がありました。
そのお粥を口にするとなん
も美味しく、お米の命、水の
命、作って下さった方々、大
げさに言えばお粥を通してこ
の世の全てに感謝する心が私
の中に生まれていました。
空腹と感謝。これが食事に
とって大切なものですね。



お寺からのお知らせ

5 護持会費改定 (旧名称：墓地管理費)

昨年より寺報や郵送にてお伝え致しております通り、陽光院に墓地をお持ちの方の一部を対象に護持会費(旧名称：墓地管理費)を令和6年度より改定させて頂きました。

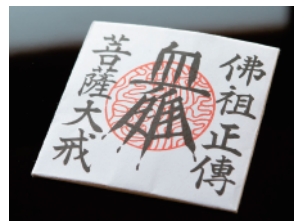
樹木の剪定・伐採、ゴミ収集費用・郵送費などの高騰により、四期連続で護持会の赤字運営が続いている理由から一部値上げとなります。

対象となる方は昭和期より墓地をお持ちの護持会費九千円の方で、三千円値上げの一万二千円へと改定させて頂いております。何卒ご了承下さい。

4 生前戒名授与式

生前に戒名を授与する「生前戒名授与式」を執り行っています。

これは自身の葬儀の事前準備にもなり、生前の内に自身のご生涯を表す納得した名を受けることも出来ます。また、戒名は仏弟子としての名前です。ですので何より自身の生き方を考えるきっかけにも繋がります。詳しくはWEBをご覧頂るか、お気軽にご相談下さい。



2 棚経 自宅でのお盆供養



お盆期間 7月13日(土) ~ 15日(月・祝)

ご自宅に帰ってきた故人や先祖へ懇ろな盆供養を行う棚経。基本的に新盆の希望者宅へお伺いしご供養致しますが、新盆でなくともご希望の方はご遠慮なくご連絡下さい。

1 供養祭 施食会



法要の様子



法話者：宇野全智師
「施食会供養の功德～お先にどうぞのおすそ分けから」

盆供養祭「施食会」
7月10日(水) 14時……法話
15時……法要

大勢の僧侶を招いて行う「施食会」供養を営みます。申込用紙又はWEBよりお申込み頂きご参列下さい。YouTube中継も致しますので、ご自宅で法話や法要の様子もご覧頂けます。尚、本年は猛暑対策として例年より一時間開式を遅らせます。

その他お知らせ

●永代供養制度「もっ」
陽光院にお墓をお持ちで、跡を継ぐ人がいらっしゃらない方向けに、今お持ちのお墓をお寺が代わりに管理と供養を重ねていく制度があります。この制度は最後にお墓を管理する方も今あるお墓に入るのとが出来ますので、気になる方はご相談下さい。

●位牌・仏壇供養
位牌が多い、仏壇が大きいなどお悩みの方はご相談下さい。

●塔婆のお焚き上げ
古くなった塔婆はお焚き上げします。本堂裏手の古塔婆置きに置いてください(無料)

●坐禅会・朝のおつとめ体験・お寺ヨガ
それぞれ月に一度行っています。ぜひお越し下さい。

7 永代供養墓 ハナミツキの碑



主にお墓の跡継ぎがいらっしゃらない方など向けの合同墓、永代供養墓「ハナミツキの碑」はご自由にご見学可能です。詳しい説明やパンフレット・お見積をご希望の方はご遠慮なくご相談下さい。

6 ホームページ からの法事申込



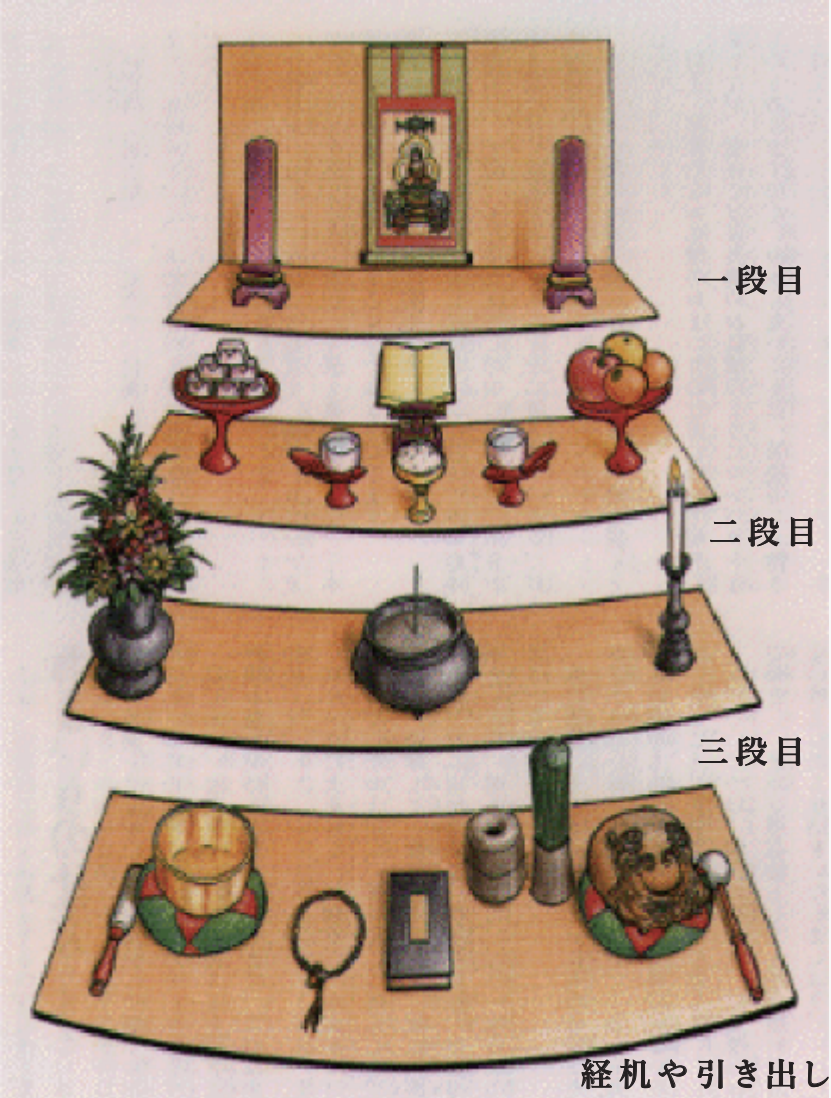
数年前よりホームページから法事などのお申し込み問い合わせが出来るよう致しております。お仕事の関係上日中連絡できない方など、こちらを利用して法事等をお申し込み下さい。
【陽光院 法事】にて検索

3 令和5年度護持会収支報告

令和5年 護持会収支計算書 自令和5年4月1日至令和6年3月31日

▶ 収入の部		▶ 支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
①護持会収入	3,506,011	①護持会運営費	5,206,854
→護持会費(檀家)	2,961,000	→清掃・樹木整備費	3,558,790
→護持会費(三ツ沢墓地利用者等)	545,000	→地代家賃(駐車場)	720,000
→雑収入	11	→通信費	487,811
当期収入合計	3,506,011	→宗費・仏教会費	416,470
前年度繰越金	3,122,342	→寺務費	23,513
収入の部合計	6,628,353	当期支出合計	5,206,854
		当期剰余金	▲1,700,843
		次年度繰越金	1,421,499
		支出の部合計	6,628,353

檀信徒の皆様よりお預かり致しました「令和5年度護持会費収支報告」です。今年度も何卒お納め頂きますようお願い申し上げます。三ツ沢墓地等ご利用の皆様も何卒ご協力お願い致します。



第12回

仏事を

知る

「仏壇のまつり方」

で、本当に供養する気持ちがあれば形は自然と整っていくはずなのです。

とは言え、正式な形を知らない故という方がほとんどかと思えます。以降仏壇内の正式な形をお伝えします。ぜひ右のイラストをご覧頂きながらお読み下さい。

①一段目の真ん中に仏像かお軸の本尊さまをまつり、その両脇に脇仏と言われる仏様、または位牌を安置します（脇仏がいらつしやる方が丁寧です）。

②二段目には過去帳やお供物、お水等を供えます。まだ位牌があれば二段目にも安置します（位牌が沢山の場合は二重に置いたり、三段目にも安置します）。

③三段目の真ん中には香炉、右に蝋燭、左に花を供えます。尚、香炉には向きがあります。三本足になっているものは一本足が前に来るように置きましょう。

④手前の経机や引き出しにはオリンや経本、お線香などを置きます。

⑤故人様の写真は仏壇の中には基本的に置かないものですが、一番上の段でなければよいでしょう。

ちなみに仏壇は本堂のミニチュア版と言われます。法事では正面の一番上にいらつしやるご本尊様の下の須弥壇に故人様の位牌や遺影を安置し、お花や供物を供えて法事を営んでいます。

■ 仏壇とは

仏壇とはなんでしようか？と聞くと、「ご先祖様や故人様の位牌を置く場所」と答える方が多いものです。決して間違いではありませんが、仏壇は「お釈迦様などの仏様をまつる場所」が正式です。そして仏壇の下に故人様の位牌を置いてご供養するのが本来の仏壇のあるべき姿です。

住職もお坊さん歴二十年になり（小僧時代を入れれば四十年近くになります）、何百というご家庭の仏壇を見て参りましたが、正直、正式にまつることが出来ている仏壇の方が少ないと感じています。一番多いのが本尊さまや位牌をまつる場所や仏具が何となく置かれている仏壇です。そして次が多いのが驚く方もいらつしやると思いますが、本尊様がいらつしやらない仏壇なのです。

■ 正式な仏壇内の形

初めに、位牌や仏具が何となく置かれている仏壇ですが、「供養する気持ちがあれば形なんてどうでもいいじゃないか」と言われることがあります。しかし、それは散らかっている自宅と同じ事で「整頓する気持ちがあれば散らかってもいいじゃないか」と同じ意味

■ 本尊様がいらつしやらない仏壇

本尊さまがいらつしやらない仏壇ですが、これはお寺に仏様がいない・神社に神様がいないと同義で、そこには祈りの対象がない事になります。もちろん位牌があれば祈りの対象はあるように思えますが、基本的に仏教ではご本尊さまを通して故人様のご供養をする事が前提です。

また、仏壇は供養だけをする場所ではなく、日々自宅に居ながら種々の祈りが出来る場所でもあります。誰かの幸せを祈る、自らへの自問自答、故人や先祖に感謝を伝える、時に神仏にすがる。さまざま祈りを通して心を整える行為が、自宅にいながら手軽に出来るのが本来の仏壇の姿です。だからこそ、位牌だけでなく人を超える存在である仏様をまつることとはとても大切なことなのです。

仏壇の無い家庭も増えてきていると聞いています。しかし、祈りというのは私たち人間が謙虚になれる行為です。忙しい日々は私達の心を必ず疲弊させます。最近では時間を作り日々祈ることが成功につながるといような本も出版されています。私は大いに同意します。お子様に仏壇をきちんと引き継がせたり、プレゼントをする。それは大切な父母の役目のような気がします。

仏の教えや禅語は悟りの境涯を伝えているもの。しかし、深遠な仏の道求めなくとも、その言葉を自らの生活に引き寄せることで、大切なものに気付かされたり、豊かな人生を過ごすヒントにもつながります。



連載 仏教の話 第15話

人が生まれたときには、
実に口の中に斧が生じている。
愚者は悪口を言って、
その斧によって自分を
斬り割くのである。

この言葉はお釈迦様が説いたお言葉で「スツタニパータ」という聖典に書かれています。ちなみにこの言葉が説かれる前には、とある事件が起きていました。

Aさんという修行僧が別の修行僧BさんとCさんを貶めるために、「二人はある女性と不埒な事をし

て、悪い欲求にとらわれています」とお釈迦様に対して嘘が混じった悪口をつきました。お釈迦様は「BとCを信じなさい。二人は温良な人たちだ」と諭しました。

Aさんはその事を繰り返して三度お釈迦様に告げましたが、取り合わないお釈迦様の場を離れました。すると、間もなく、Aさんの身体に小さな腫れ物が出てきました。その腫れ物は次第に大きくなっていき、瓜のような大きさになった後、破裂して膿と血がほとばしりました。Aさんは結局その病苦のために死去してしまつたのです。

その後のある夜、お釈迦様の元に、娑婆世界の主、梵天ぼんてんが赴きこう告げました。「Aは、BとCに敵

意を抱いていたので、死んでから

紅蓮地獄ぐれんに生まれました」

明くる日、お釈迦様は大勢の修行僧を集め「人が生まれたときには、実に口の中に斧が生じている。愚者は悪口を言って、その斧によって自分を斬り割くのである」と説いたということです。

日本昔ばなしのような恐ろしい話です。尚、紅蓮地獄とはすさまじい寒さにより皮膚がさけ、流血をし人間が紅色の蓮のようになる場所、しかも寿命は五千兆年あると言われる場所です。

それだけ修行者にとって相手に敵意を持つ悪口や嘘は罪が重いということでしょう。また、Aは教団の乗っ取りも図っていたとも言わ

れています。

さて、このお釈迦様の言葉をもう少し平易にしてみましよう。

「人が生まれたときには、実に口の中に斧が生じている。愚者は悪口を言って、その斧によって自分を切り裂くのである」↓
「人は誰でも悪口や嘘をつく欲が備わっている。愚かな者はその欲をコントロール出来ず、悪口を言う（人の心だけで無く）自身心をも切り裂くのである」

悪口を言うことは私たちの煩惱であり欲です。なぜかと言えば、悪口の心の働きは、この話のように人を陥れ自分の都合を押し通すことや、承認欲求を満たすこと、ストレスのはけ口など、貪り・怒り・

恨み・嫉妬・慢心などさまざまな煩惱から生まれるものだからです。悪口を言うことは間違いなく自身の心を汚します。悪口を芸にしている芸人さんなどをテレビで久々に拝見すると、いくら芸とは言え、段々と人相が悪くなってきてしまったなど感じることも多いものです。

悪口は口の中にある斧が自身の心を切り刻みます。一度位ならば軽傷で済むのかもしれませんが、いつも悪口を言っていれば心は切り裂かれ続けいつかは身を滅ぼします。地獄にも落ちるようです。で何卒ご用心下さい。